

## 子どもの生活実態や地域子育て団体の調査について

### ～みらいにはばたく～いわき・<sup>きん</sup>燦シャインこども・地域調査事業

<平成31年度新規事業>

#### 1 事業目的

近年、子どもを取り巻く生活環境・社会環境が急速に変化している中、児童虐待やいじめ問題、子どもの貧困などの社会問題が顕在化している。

こうした背景には、個別の家庭における要因のみならず、地域のつながりの希薄化、身近に相談できる相手がいないなど、様々な社会的要因が考えられる。

全国的な顕在事例のみならず児童虐待やいじめ問題などは潜在的に存在しているものと考えられることから、本市においても、子どもの生活実態や地域で子育て支援の活動を行っている団体の事例などを把握し、効果的な施策につなげていくことを目的に調査を実施する。

なお、調査により生活実態等を把握した後は、他市の事例を参考にしながら、①問題が生じる前に未然に防止するため、また、②課題について解決に導くため、支援の必要な家庭と地域における社会資源をマッチングした上で、社会資源がない場合には、地域の実情に応じた支援ができるよう新規事業の構築なども検討していく必要がある。

#### 2 調査概要

いわきネウボラの深化に向け、本市における子どもを取り巻く環境の現状・課題を把握し、子育て支援施策に資することを目的に、(1)子どものいる世帯へのアンケート調査（子どもの生活実態調査）及び(2)市内の支援団体の調査（資源量調査）等を実施する。

##### (1) 子どもの生活実態調査

|           |   |
|-----------|---|
| 対象者及び調査件数 | <p>小学5年生がいる世帯(保護者・児童) 約1,500世帯<br/>         中学2年生がいる世帯(保護者・生徒) 約1,500世帯<br/>         ⇒合計 3,000世帯を想定</p> <p>《参考》<br/>         市内の小学5年生児童の実人数 約2,843人<br/>         市内の中学2年生生徒の実人数 約2,935人<br/>         (※平成30年5月1日現在)</p> <p>※対象世帯の小5と中2とした理由<br/>         ・いずれも学校生活に慣れ、地域・近隣の周辺関係も安定した状況にあるため<br/>         ・他市の実施状況を見ても、同様の理由で実施しているため</p> |
| 調査方法      | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとその保護者へそれぞれに調査票を配布し、分析する。</li> <li>各学校を通じて配布・回収を想定</li> </ul>   |
| 設問数       | <p>(1) 子ども(児童・生徒)への調査 20～30問程度を想定<br/>         (2) 保護者への調査 20～30問程度を想定</p>  |

|      |   |
|------|---|
| 調査内容 | <p>(1) 子どもへの調査<br/>・起床・就寝時間、朝食・夕食の状況、放課後の過ごし方、進学希望等</p> <p>(2) 保護者への調査<br/>・世帯の状況、経済状況、必要な支援策、地域との関わり等について</p> <p>※将来を担う子ども達が夢と希望を持ち、燦々と輝くいわき市（サンシャインいわき）を目指して、保護者の視点のみならず、子ども自身への調査を実施する。</p> <p>※平成28年に福島県が実施した子どもの貧困に関する実態調査や他市の先行事例等を参考としながら、本市の特色を踏まえ、必要な項目を加えた上で素案を作成し、<u>本分科会等での協議を通じて、加除修正する。</u></p> |
|------|---|

## (2) 資源量調査

|      |  |
|------|--|
| 対象団体 | 市内の子育て支援に係る関係機関や団体   |
| 調査方法 | <p>保育所等各施設の保護者へのアンケートやインターネットアンケート（おやCoCoアプリ等 ※詳細は検討中）を活用し、市内の子育てに係る団体を広く調査し、既存情報と併せてデータベース化を実施。</p> <p>その中で、これまで市で把握していなかった団体を中心にヒアリング調査を実施</p> |
| 調査内容 | <p>(1)関係機関や団体の活動状況調査</p> <p>(2)地域の子どもや家庭に対する支援内容について調査</p>   |

## 3 調査結果の活用について

### (1) 新規事業の構築

子どもの生活実態調査結果を踏まえ、新規施策を総合的に検討する。

（例：子どもの居場所づくりに係る事業など）

### (2) 第二次市子ども・子育て支援事業計画（こどもみらいプラン）への反映

子どもの生活実態調査の結果を受け、改めて子どもの貧困対策の方向性について見直しを図り、第二次市子ども・子育て支援事業計画（こどもみらいプラン）に反映する。

### (3) 地域資源のデータベース化

資源量調査のデータベース化を図り、子育てコンシェルジュサービスなどにおけるアウトリーチ機能の充実や、子育て支援に係る行政と地域との連携強化を図る。（共創のまちづくり）

また、子育てコンシェルジュのみならずケースワーカーと情報を共有することで、ニーズに応じた支援・情報提供を行う。

#### 4 事業スケジュール(予定)

| 年度  | 月     | 内容                             | 備考              |
|-----|-------|--------------------------------|-----------------|
| H30 | 2月    | H30 第5回児童福祉専門分科会               | 調査概要等説明         |
|     | 3月    | H30 第6回児童福祉専門分科会               | 調査項目について協議      |
| H31 | 4月～5月 | H31 第1回児童福祉専門分科会               | 調査項目決定          |
|     | 6月    | 調査事業委託に係るプロポーザル                |                 |
|     | 7月    | 調査期間                           | 夏休み前に調査・回収を実施。  |
|     | 8～9月  | 調査結果中間報告<br>(H31 第〇回児童福祉専門分科会) |                 |
|     | 3月    | 調査結果報告<br>(H31 第〇回児童福祉専門分科会)   | 第二次こどもみらいプランへ反映 |